

〔畜産農家の声〕

妹尾 始さん

(備前県民局畜産班)

私が酪農を始めたのは、昭和59年3月、妻(睦美)と結婚をし、妹尾牧場の一員になってからです。それまでは、ホクラクのヘルパーをさせていただきました。それから、つかの間の昭和61年6月に義父が急逝され、牛の事も地域の事も何も判らないまま、日々の作業をこなすのに精一杯でありました(妻妊娠中、長男1才、義母)。周りの人々に助けられ、本当に感謝しています。

家族皆が、動物好きな事もあり、子供が保育園に行く前ぐらいから、犬・猫・羊・ポニー・山羊・豚・アヒル・アイガモ・鶏・鯉・金魚・亀(現在、犬・猫・ミニ豚・ポニー)等、沢山の動物に囲まれていました。人里離れていた我が家にとっては(特に子供達にとっては)、友達であり、仲間であり、癒しの一息でありました。動物を従えて牧場探検に出たり、ちょっかいを出し怪我をしたり、いろいろなドラマやハプニングの連続でした……。楽しい一時でもありました。そのかいもあり、子供達はよく牛舎の手伝いをしてくれました。本当に助かりました。

フリーバン牛舎



平成7年に建部町に公社営事業の話があり、我家においても、施設の老朽化、ふん尿問題等

あり、当時、県内において、フリーストールやフリーバンでゆとりある酪農経営を実践している牧場があり、いろいろ考えた末、タンデムパーラーとフリーバン牛舎にすることにし、堆肥舎、作業機械も設置、導入しました。

当初、機械やシステムに慣れるのに苦労しましたが、慣れてくると繋ぎ牛舎に比べ体力的には楽になりました。牛の頭数も搾乳牛65頭と少なく、牛たちも牛舎の中でのびのびしていましたが、頭数も増えてくると強弱関係が出てきたり、栄養面、環境面や繁殖面においてもトラブルの元になります。ちょっとした見落としが、大変な事になったりして……。『乳房炎、えーーまた乳房炎!』頭を抱える日々も多々あります。オガに乳酸菌や酵素、石灰を混ぜたり、戻し堆肥にしてみたり、いろいろ試行錯誤の最中でありました。

県の畜産関係者の方々、おか酪の方々、家畜診療所の方々に大変お世話になっており、今後ともご指導、お願いいたします。

最近では、人間の方も老化が進む一方ですが、同志会等で若い人達と活動していると、若い人達の前向きな姿や意欲ある行動力に元気をもらい頑張っているところです。

景気の停滞、食育、地産地消、食の安全安心、TPP・・・今後どのようになるのでしょうか?

酪農の未来に幸あれ!

(備前局畜産班)

いろいろと研究熱心な妹尾さんです。近く後継者の牧場経営参戦が期待され、忙しい中でも経営内にまた三世代の楽しい一時が生まれることを望みます。